



Hospital Data

医療法人社団 朋和会
西広島リハビリテーション病院

<http://www.welnet.jp/>

所在地 広島市佐伯区三宅6-265

電話 082-921-3230

診療科目 リハビリテーション科・内科・整形外科・脳神経外科

5日毎日、平均8・7単位のリハビリを提供し、86%という高い在宅復帰率を実現した。リハビリスタッフ以外に管理栄養士や臨床心理士、薬剤師などの専門職も手厚く配置し、多角的できめ細かな対応を行っている。また、独

医療法人社団 朋和会 西広島リハビリテーション病院

開業28年目を迎える先駆的なリハビリ専門病院 手厚い人員配置ときめ細やかな対応で 高い在宅復帰率を実現

地域初の都市型リハビリテーション専門病院として1986年に開院し、遠方からも多くの患者が集まる西広島リハビリテーション病院。139の病床を9名の医師（うち2名はリハビリ専門医）が担当し、看護・介護職をはじめとするスタッフも義務付けられた基準以上に手厚く配置。充実した体制のもと高い在宅復帰率を実現し続けている。

1日3時間のリハビリを
365日提供

西広島リハビリテーション病院は、制度が導入された2000年に広島県下で初めて回復期リハビリ病棟を開設し、現在、139床が回復期リハビリテーション病棟である。脳関連疾患の患者を中心に、整形疾患・内科治療後の患者なども幅広く受け入れており、質・量ともに高い水準のリハビリを追求している。



院長
岡本 隆嗣

●おかもと・たかつぐ／平成13年東京慈恵会医科大学卒業。日本リハビリテーション医学会認定リハビリテーション科専門医。全国回復期リハビリテーション病棟協会常任理事。

自の患者情報システムを導入してチームの情報共有し、緊密な連携に役立てている。

「リハビリ専門医は私を含めて2名で、4月からは3名に増えます。そのほか脳外科、整形外科、内科出身の計9名の医師で患者さんを診ています。現在は高齢化に伴い、さまざまな合併症をもつ方が増えているため、当院で行う医療措置のレベルアップを図り、高度な全身管理が必要な患者さんをより広く受け入れていく予定です」と岡本隆嗣院長は語る。

現在は地域連携バスにより11の急性期病院と連携。重症度の高い患者の受け入れ依頼があった場合は、院長が副院長が急性期病院に赴き、医師間で患者の機能障害などの状態を把握することを心がけている。

新しいリハビリ手法も積極的に導入

同院の基本理念は「信じ合

い、明日を拓く」。確かな信頼関係のもとに質の高いチーム医療を提供すると共に、新しいことにチャレンジし続ける「挑戦」の精神も大切にしている。2013年には新体系となつた病院機能評価をいち早く受審し、認定を受けた。また、磁気刺激治療や歩行支援ロボットなど、先進的なリハビリも積極的に実施している。

磁気刺激治療は慈恵会医科大学で開発された治療法で、同院では2010年から回復期を終えた患者を対象に行い、良好な成績を獲得。今年には回復期での導入を準備している。また、歩行支援ロボット（リズム歩行アシスト）は、患者さんの足の振り出しをサポートするもので、本田技術研究所と共同で研究開発を進めている。2011年には神経学的音



磁気刺激治療（TMS治療）

楽療法を導入。リズム聴覚刺激（RAS）を用いた歩行訓練や、発話を促すための訓練（MIT）などを行い、患者のリハビリにアプローチしている。

退院後も
万全なフォローを

退院後のフォローアップについても力を入れている。退院2週間後には自宅へ帰られた患者・家族を対象に医療相談員が電話でヒアリングを行い、状況把握と共に相談を受けつける。また、必要に応じて退院日と退院1ヶ月後に自宅を訪問するサービスを行っている。

「入院中だけではなく、帰宅後の生活の様子を具体的に把握えうえで、本当に患者さんに役立つリハビリを行いたいと思っています」

同院は開院以来、特に脳卒中後の言語障害や嚥下障害のリハビリ実績で定評があり、現在も広島市近隣だけに限らず、呉や岩国等の遠方に住む患者も数多く入院する。「障害があっても暮らし慣れた環境で生活できるようリハビリ医療を通じて地域に貢献したい」という開院以来の思いに基づき、家族や医療福祉関係者のためにリハビリの研修会や啓蒙活動も推進している。